

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区港南 4-7-37 港区港南緑水公園内
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん港南緑水

### 1 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

職員が出勤中に発見してきたカマキリに興味があるようだったので暫く園で観察したり飼育してみた。

### 2 活動スケジュール

<9月～3月>

- ・職員が通勤途中にカマキリを捕まえる。
- ・何を食べるのか、身体のパーツを図鑑で観察する。
- ・食べる様子を観察する。
- ・自然に返す。
- ・散歩時に卵を見つけ、観察しながら孵化を待つ。

### 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・虫かご ・図鑑 ・虫眼鏡 ・カメラ

#### 4 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・ 図鑑や虫眼鏡をしようしながら、カマキリを観察する。
- ・ 餌を捕まえに行く。
- ・ 食べる様子を観察。
- ・ 餌の捕獲が難しくなったため、逃がす。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「どうやって動くのかな」「何を食べるんだろう」「育ててみたい!」との声が上がったため、一緒に図鑑で調べた。カマキリがバッタを食べることを知ると、「みんなで捕まえに行こう」との声が上がった。子どもたちと一緒にバッタを捕まえ、早速与えてみると、カマキリがバッタを狙い動かなくなった様子を見て「狙ってるのかな」「みんなも静かに見よう」と子どもたち同士で声を掛け合う姿が見られた。バッタが食べられる姿を見て「かわいそう」という児の姿も見られたが、保育者が「生きていくためには必要なことなんだよ」と話をすると「みんなこうやって生きてるんだね」と納得する姿が見られた。餌のバッタが取れなくなると「食べるものがないとかわいそう」との声が上がった。子どもたちと話し合い逃がすことになると、さみしがる姿も見られたが近隣の公園に逃がしたため、「また会えるかも」と声をかけた。その後、公園で遊んでいる際に、カマキリの卵を見つけると、「前に逃がしたカマキリが産んだのかも!」と嬉しそうにしている姿が見られた。

卵を園に持ち帰り、持ってみたり優しく触れたり観察しながら生まれてくることを心待ちにしている。



## 5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・カマキリを飼う中で、時には補食の場面もあり、残酷な場面のため児に見せていいのか保育者の中で葛藤があったが、児と一緒にその場面も見ることで、“生きていくということとは” “命を食べている”姿を見と学ぶことができた。
- ・児が興味を持ち、保育者からの促しではなく自ら調べて育てたい、育てるには何が必要か等考えて意欲的に調べていく姿に、図鑑のを伝えてきたことや今までの“調べてみよう”の声掛けが活きているのだと感じた。
- ・今回のカマキリとの出会いを通し、成虫から卵の発見までの活動を経験したことで生命のサイクルを身近で学ぶことができていた。